

**(仮称)第2次21世紀矢板市総合計画
策定検討委員会 中間提言書**

平成22年3月

(仮称)第2次21世紀矢板市総合計画 策定検討委員会 開催経緯

会議名	日時	場所	議題	出席数	備考
第1回	H21.10.14(水) 19:00~20:30	第一委員会室	・委員、役員選任 現計画主旨等事務局説明	10名	
第2回	H21.11.12(木) 19:00~20:50	本館会議室	基本構想 全体協議 ・現状と将来の見とおし ・よいところ、わるいところ	9名	継続
第3回	H21.12.16(木) 19:00~20:50	本館会議室	基本構想 グループ協議 ・前回協議まとめ アンケート結果(事務局説明)	11名	まとめ
第4回	H22.1.20(水) 19:00~20:40	本館会議室	基本構想 グループ協議 ・将来都市像 都市構造 ・人口フレーム	9名	継続
第5回	H22.2.16(火) 19:00~20:40	本館会議室	計画の説明(事務局説明) ・土地利用について ・将来都市構造について	9名	矢板市都市マスタープランによる
第6回	H22.3.16(水) 19:00~20:50	第一委員会室	基本構想 全体協議 ・将来都市像について(まとめ) ・都市構造・人口フレーム	8名	

配付資料

21世紀矢板市総合計画改定後期計画

： 概要版

(仮称)第2次21世紀矢板市総合計画 策定アンケート調査結果

矢板市都市マスタープラン

： 概要版

矢板都市計画図(1/25,000)

検討成果

矢板市の良いところ 悪いところ 資料 -1 -2 -1 -2

現状と将来予測 資料 -1 -2

将来像案 資料

中間提言書(基本構想案) 本書

(仮称)第2次21世紀矢板市総合計画 策定検討委員会 提言書

本提言書は、(仮称)第2次21世紀矢板市総合計画策定検討委員会にて検討した意見を集約したものです。構成については、現計画である「21世紀矢板市総合計画改定後期計画」に添って作成しました。

第1部 基本構想について

第1章 [矢板市の良いところ(第2節 矢板市の特性)]に関する事項

(第2回、3回 委員会検討結果による) 資料 -1 -2

[総括]

「自然・環境」

- ・ 美しい高原山(すばらしい観光資源:水・緑・農地など)が代表される。
- ・ あまり知られていないが、大学生のオリエンテーリングや自転車(サイクルロードコース)などにも使われている。
- ・ 市街地の近接部に豊かな自然が残され、棚田など農村景観に恵まれた適度な田舎であり、街が静かでほっとできる。
- ・ 市も環境都市宣言を行うなど、「環境保全」について積極的に取り組んでいる。

「人」

- ・ 実直、素朴。
- ・ 近所づきあいがまだ残っている街。古き良き田舎である。
- ・ フットサルパークがあり、矢板中央高校が全国大会に出場するなど、サッカーが盛んである。
- ・ 高原トライアスロンや花火大会、あんどん祭りなど、市民力を活かした活動が行われている。

「教育」

- ・ 一部地域で小中一貫教育が実施されている。また、市内には高校が3校あり、市外からの通学者も多いため、日中の時間帯は人口が多い。
- ・ 「ともなり文芸祭り」は、企画・内容とも充実しており、参加者も多い。近隣市町のイベントと比べてもかなり盛大だと思う。文化的な「矢板らしいまつり」として、さらにPRし、活用してはいかがか。
- ・ 小学校の統廃合により、使われなくなった校舎の利用法を考えていかなければならない。

「インフラ」

- ・ JR、国道、高速などすぐれている要素が多い。首都圏に近く、日光や那須などの観光地に近いなど、交通アクセスの良さは特出している。塩谷地区のほぼ中心にある立地など、これらを活かしていきい。これをもっと活かしていく。

「産業」

- ・ 伝統的に農業が盛んである。豊富な農産物が、安価で高品質な上、味が良い。そのため食糧自給率が高い。特にイチゴやリンゴ等が有名。
- ・ 工業では国内有数の大手企業が立地している。亀山市には負けるが、この城下町的な要素が

強い。第2次産業の割合が高い「モノ作りの市」である。これを活かしていればよい。

- ・ 森林が多く、かつては林業も盛んであったが、現在はこの特性が活かされていない。
- ・ 観光では、ゴルフ場が多いので、もっと泊まれる場所が増えればよいのではないか。

ゴミの分野において、矢板市は「ゴミのリサイクル率」が全国の市のなかでも良い方のランクである。これを活かしてイメージアップにつなげていければよいのではないか。

「現状と将来の見とおし（第1節 将来の展望、一部 第3章 将来都市像）」に

関する事項

（第2回、3回 委員会検討結果による） 資料 -1 -2

少子高齢化の進行

少子高齢化による人口減少が一層進み、福祉分野はもとより、保健、医療、産業や、まちづくり等にも様々な影響がでてくる。そのため、行政運営もこれまでの取組を適正に見直し、変更する必要が生じてくる。矢板市も人口減少により、高齢化が進んでいく。

（例）子どもの減少により保育の待機児童は少なくなるが、両親の共働きにより要保育児童は増加する。

環境に関する配慮

世界的に自然環境への意識が一層高まってきている。特にCO2(地球温暖化ガス)の排出量抑制対策を世界的な取組として協議の場が持たれるなど、循環型社会構築の必要性がますます高まっている。政府は削減目標値(25%削減)を設定するなど率先した取組を行う姿勢をみせている。

矢板市は、高原山をはじめ豊かな自然を有しており、「環境都市宣言」をするなど環境への配慮を優先する考え方が広まりつつある。

経済構造の変化

世界経済市場における新勢国の台頭や長引く不安定な景気状況により、国内企業の国際競争はより激化している。そのため、国内経済構造の変革が増長し、工場や事業所をはじめ本社機能の海外移転等が増加している。また、熾烈な国内外競争の中、非正規労働者の常態化、所得の低下、不安定な雇用情勢など労働条件の急激な悪化による社会問題が発生している。

内陸型工業県としての栃木県についても、大手企業が県外へ流出するなど、その地位が揺らいでいる。

農林業の構造変化

農林業については、後継者不足等による就労人口の減少や高齢化が進む中、経済構造の変化による影響などから産業が衰退している。農業においては、特定の生産物特化が進展し、林業においては、木材価格の下落が止まらず低価格が常態化している。

環境保全の観点においても、これら農林業との連携は不可欠であり、循環型社会の構築に向けた産業構造の確立が求められていく。

市街地形態の変革

好転しない経済状況の影響により、特に収入減少などによる購買意欲の低下から、大型店への集中傾向がみられる。熾烈な国内競争により価格も低下する傾向にあり、大型店の低価格競争が

激化している。また、車型社会の進行や宅配・通販型購入の増加などライフスタイルの変革により、より一層中心市街地の空洞化が進んでいく。

市民との協働

市民ボランティア、企業の社会貢献、NPOなど、住民や企業の自発的な活動が広がっている。その一方、行政に求める社会的ニーズは多様化・複合化しており、これらに対応するためには、民間とのパートナーシップ・協働がさらに必要となる。

地方分権の推進により、地域主体のまちづくりを推進するための制度変更が進められている。国県からの補助やよその資源をあてにしない「自主、自前」の精神が必要となる。

その他

人口や経済指標など全ての面において、右肩上がりの計画はやめ、今後は上手に少しずつ小さくしていく考え方が必要なのではないか。

よその資源や資本をあてにせず、矢板だけで生きられる方法を検討すべき。矢板を住みにくいと思ったことは無い。

[総括]

環境都市宣言をしているように、特に自然環境にはいいものがたくさんある。しかし、すぐれた自然環境を活かし「売り」にしていく姿勢が足りない。今後は、自然環境を活かした農業・観光・産業を振興していくことが必要である。

エコハウスを核として、農林観光産業が一体となった環境・経済対策を矢板市独自の取組として確立し、市内外に広めながら市の活性化を図るようなイメージである。

環境に視点をおき、各産業を色々と組み合わせ活用していく仕組みを考える。人材がいなくてもいいわけではないが、結びつけるシステムがない。佐野市には、ボランティアセンターがある。このような、人と人とを結びつけ全体を繋いでいくような仕組みが必要である。

産業については、農業と工業とに分けて考えてみたが、それぞれでは特徴が弱い。今、様々な産業を組み合わせ、かけ合わせて相乗効果を生み出していく新たな「第6次産業」と呼ばれる分野が注目されている。道の駅を核として、農商工連携を行っていくことにより、新たな産業に繋げていくことが大切である。

アンケートでも関心が高かった医療の分野であるが、専門的な知識や人材が必要となるので、市独自の取組は難しい。介護予防等、高齢者が生きがいをもって暮らせる方策を考えていくべき。

インフラについては、街中には不満な部分もあるが、主要道路は整備されつつある。しかし、それが活かされていないので、上手く活用するまちづくりが必要である。また、矢板市と他市町を結びつける道路網は整備されているため、逆に矢板に魅力がないと外に流出してしまう。

教育においては、学力テストが全国平均点を下回る現状である。教育現場が均一化、画一化している状況で、学力については山型からM型へ2極化する傾向にある。家庭環境も教育熱心と無関心、過保護など多様化している状況において、市としての今後の教育方針や方向性を考える必要がある。

第2章 [人口フレームについて] (第5回、6回 委員会検討結果による) 資料

- ・ 少子化の時代ではあるが、将来人口が現状のままでは、市としての成長がストップしてしまう。数値については、あくまでも目標値なので、少し高めに設定する必要があるのではないか。
- ・ 現計画策定時点から、一時人口は横ばいから減少傾向にあった。また、最近のシャープ矢板工場の機能増強による大幅増員の公表をはじめ、片岡地区市街地整備着手によるつつじヶ丘などの需要増、さらには本田技研のさくら市進出などを勘案しても、5万人へ戻すというのは非現実的である。しかし、都市マスタープランによる定住基盤の推進により、現状より1割程度の増加を目標値とすることは可能ではないか。
- ・ 将来人口フレームを設定するにあたり、定住人口のみでなく、交流人口も含めた目標設定を行ってみたいかがか。

第3章 [将来都市像について] (第4回～6回 委員会検討結果による) 資料

[総論：将来都市像のキーワード]

- ・ 環境資源をテーマとして、様々なコンテンツ[農業、商業、工業等]の職種人がネットワークを作って相互に係わっていける社会の構築(10年後の理想像)。
- ・ 今後、人口減少により産業も戻すばみになる状況で、市民が安心して子育て・介護ができるようなネットワークを構築する。

案1)

- 「農・林・商・工・観光業の共生するまちづくり」
- 「デジタルとアナログが融合したまち デジタルシティINやいた」
- 「活力ネット、1・2・3」(1次～3次産業の活力向上をめざす)
- 「自然と生きるまちづくり エネルギー自給率 日本一」
- 「安心、緑のまちづくり」

案2)

- 「市民力で創る、やすらぎ、いきいき、たのしいまち やいた」
 - 「やすらぎ」は、保健福祉、環境
 - 「いきいき」は、産業(各分野、商店街の賑わいなど)、教育(こどもづくり)
 - 「たのしい」は、夢、観光(棚田オーナーやお試しの家(週末の交流人口増加))
 - 「市民力」は、これら各分野と横並びで、それぞれに関与するボランティア等

[各論：まちづくりの基本方針について]

(保健医療、地域・児童・高齢者等福祉、社会保障等について)

(意見)

- ・ 現計画では、「子育て」「高齢者(障がい者含む)」「要介護者」の3項目で構成。しかし、「高齢者」と「要介護者」を分ける必要はないのではないか。
- ・ 部門間が縦割りであり孤立している。「子育て」や「高齢者の暮らし」などは、市民が一体となって助け合いながら取り組む課題である。
- ・ 「高齢者がのびのび暮らす」は実態に合わない。むしろ「いきいきと暮らせるまちづくり」のほうが、しっかりとくるのではないか。

- ・どこの学校でも放課後児童の受け入れができると、共働きの親は安心して働くことができる。

(案)

市民同士が助け合い、温かみがあり、安らぎのあるまちづくりをめざします。
恵まれた自然を活かし、市民が健康で長生きできるまちづくりをめざします。
高齢者の力を活かして子育てを手伝う、また若い人が高齢者の手助けをするなど、お互いの必要とする力を活かす人間関係づくりをめざします。
地域ぐるみで安心して子どもを生み育てることができるまちをめざします。
高齢者や障がい者を含むすべての市民が、健康でのびのびと暮らせるまちをめざします。

(生涯学習、教育、市民文化、スポーツ、青少年育成等について)

(意見)

- ・子育ての現場と教育分野のより一層の連携が求められる。
- ・過去に「一人一つの生涯学習スポーツ」を掲げたことがあった。全員が実現しているわけではないが、継続していくことは必要である。
- ・「子ども」は「未来にはばたく」よりも「未来を担う」とするべきではないか。

(案)

市民が生きがいを見いだせる、楽しくいきいきとしたまちづくりをめざします。
家庭教育と学校教育とのバランスを整え、健全な青少年の育成をめざします。
伝統を大切にしながらも、新しいことにも取り組むまちづくりをめざします。
「一人一スポーツ」を長く継続して取り組み、生きがいをもてるまちづくりをめざします。

(環境、資源循環、下水道、河川、災害対策、交通安全について)

(意見)

- ・環境都市宣言の理念に基づく「自然環境保全」「循環型社会の構築」などを柱とする。
- ・基本的に現構成、表現でも問題無いと思われる。但し、「下水道」のみ特出する必要は無い。「環境保全」と「安全安心」の2つの柱でよいのではないか。
- ・これまでは、全てにおいて豊かさを求めてきた。しかし、「安心・安全」普通に暮らすことが難しい世の中になってしまった。これからは、特にこれらを重視する姿勢が必要。

(案)

ごみの不法投棄を無くし、美しいまちをめざします。
資源の有効利用を図り、資源循環型の地球環境にやさしいまちをめざします。
豊かな自然を守り、災害対策を進めながら、安心して安全な生活ができるまちづくりをめざします。
人と水と緑を守り育み、未来を見据えたまちづくりをめざします。
地域で見守り、みんながのびのび生活できるまちづくりをめざします。
これまでもこれからも、災害や犯罪のない安心・安全に暮らせるまちづくり。
豊かな自然を守り、清潔で安心・安全なまちづくり。

(住宅、道路、公園、上水道について)

(意見)

- ・公園などの数は増えたが、一方で管理の面では後退している。質の向上を求めていくべきである。
- ・環境都市宣言に基づき「水資源保全」について特出ししたらどうか。
- ・定住基盤整備として、計画的な土地利用を推進するなかで、環境に配慮した定住基盤整備を進める。その上で、効率的な市街地形成(コンパクトシティー)について方向性を示す必要

がある。

(案)

地元産材を利用した長期優良住宅の普及を推進し、環境にやさしいまちづくりをめざします。計画的に効率的な道路整備を行い、みんなが住みよいまちをめざします。

水源となる森林を守り、安心して飲める上水道の整ったまちをめざします。

自然と調和した公園整備を行い、誰もが一息つける市民の憩いの場を増やします。

豊かな老後(Ｕターンを含む)を生活環境の整ったまちで暮らしていけるまちづくりをすすめます。

(商業、サービス業、工業、農林業、観光、雇用環境について)

(意見)

- ・環境資源活用を基本にして、農商工連携による第6次産業の創設を柱とする。
- ・特に、環境都市宣言の理念との整合性を図る。
- ・自然資源や自給エネルギーを最大限に活用し、これからは「地産地消」ではなく「地産地食」に方針転換するべき。

(案)

間伐を中心とした森林整備を進め、間伐材を有効利用し、二酸化炭素削減に取り組むまちづくりをめざします。

農業・林業・観光が一体となった魅力あるまちづくりをめざします。

バイオスタウンなど環境産業に力を入れ、環境産業での雇用を増やし、環境にやさしいまちづくりをめざします。

近隣の市町から楽しみながら買い物に来るような、商業・サービス業の盛んなまちづくりをめざします。

アクセスの良いところを利用し、都会からの若者が立ち寄れる場所を提供できるまちづくり。例えば、映画やテレビなどのロケ地を誘致する。

交通の利便性を活かし、物流拠点としてのまちづくりをめざします。

第4章 [将来都市構造] について (第4回～6回 委員会検討結果による)

基本的に都市マスタープランに即した計画的なまちづくりを引き続き進めていく。しかし、コンパクトシティの概念はどこかで触れていかなければならない。

これからの経済状況においては、右肩上がりにV字回復することは難しく、限られた財源を効率的に使っていく必要がある。総合計画においても、実効性のある計画を目指していくべきではないか。

片岡地区については、駅の東西自由通路をはじめとする市街地整備に着手する。在来線についても、湘南新宿ラインによる新都心(新宿方面)や横浜までのアクセス向上、グリーン車の設定、時間短縮など利便性の向上が図られてきている。国会移転が事実上進展しない中で、新幹線の具現化は非現実的ではないか。

新幹線新駅構想は「夢」の部分でもあり、設置を目指さないことは寂しい気がする。一方、市民の目線を見た時に、未だにそのようなものを目指しているのかと思う部分もある。

新幹線を実施しない場合、それに替わるものとして、例えば国道4号4車線化や北部パイパ

ス整備、東北自動車道スマートICなど、新たな施策を目指し取り組むことが必要ではないか。

[その他] について

矢板市の景観は、まわりの自然と調和した街並みの風景が特に美しいと思う。この自然豊かな環境を大切にしていける取組を進めることが、矢板市のすばらしい特徴となるだろう。

第二部 **基本計画について** (矢板市の悪いところ)

(第2回、3回 委員会検討結果による) 資料 -1 -2

「総括」

アンケートの結果と、委員会にて検討した方向性が一致した。

最も重要な課題が医療関係であった。これからの充実を望むといったところの医療福祉関係、雇用の場といった産業と教育関係がアンケートの上位にあがっていたと思うが、それらは、確実に意見としても出てきている。しかしながら、改善できるところとできないところがあると思う。医療、産業の分野で挙げられた様々な個別課題は、市単独での解決は難しい。なるべくコストをかけず、成果をあげる工夫をしなくてはならない。

医療福祉や教育、環境等の分野において、ボランティアのベースである「人」がどのように係わりあえるかが基本であると思うが、気質や経済状況、環境、まちづくりに関する関心の低さがベースにあるので、そこをうまく盛り上げていかないと、ボランティアやNPOの活性化は難しい。

教育の分野では、矢板市の特徴がはっきり見えない。

悪いと言いつつも期待ができる分野として、環境や自然資源の利用などがあるが、矢板に住んでいる人は、重要でないと思っていることが、外から見れば素晴らしいものであるということがある。例えば、市外からオリエンテーリングや自転車をやるために来る人がいるということ。一部の人は知っているが、大多数の人は知らない。市外から来た人がもっと利用できる良い場所がいっぱいあるということを発信していく必要がある。

[個別意見] 別添のとおり

現 状	将 来
福祉部門	
<p>大きな老人ホームの不足。(806市町村中783位)</p> <p>市の人口減少</p> <p>少子高齢化と人口減少</p> <p>少子高齢化</p> <p>市の人口減少(特に30代と子ども)と高齢化進行</p> <p>保育部門において待機児童は無し</p> <p>地域総合病院の経営、診療充実は厳しい。</p>	<p>老人施設の整備(小規模多機能型シルバーハウジング)</p> <p>一層の福祉の充実</p> <p>一層の進行により医療、福祉、年金、産業、雇用、まちづくりに大きな影響</p> <p>適正化への移行</p> <p>市の人口減少。高齢化ますます進行</p> <p>人口減少、夫婦共働き。保育園入園希望増。</p> <p>政策転換により良くも悪くも……。</p>
環境部門	
<p>豊かな自然。バイオエネルギー資源、高原山を源とした水、緑、農地がある。</p> <p>環境への配慮を優先する考え方の広がり。</p> <p>温室ガス削減目標25%のための対策強化検討中。</p> <p>矢板市の現状は平凡。</p> <p>エネルギーを他県から購入。</p> <p>ゴミのポイ捨て。野外看板が多い。</p> <p>ゴミ分類が自治体によりばらついている、矢板市は23%で、全国市町村ランキング</p>	<p>世界的に自然環境への意識が一層高まる中、改めて、矢板市の豊かな環境を活かすバイオエネルギー活用への行政支援が必要となる。</p> <p>環境に配慮した循環型社会形成に向けた取組</p> <p>CO2削減に向け、自然エネルギーの有効利用が求められる。エネルギー効率の良い住宅等の開発必要。</p> <p>エコハウスを核とした農林観光産業一体の環境対策。</p> <p>エネルギーを地域で自給。</p> <p>清潔な街・道・農地。</p> <p>リサイクルの取組は多方面との連携が求められる。(ドイツ、スウェーデンなど先進国から学ぶべき)</p>
教育部門	
<p>集団の均一化</p>	<p>個の能力を伸ばす教育</p> <p>サタデースクール(地域力)</p>
観光部門	
<p>史跡指定を受けた歴史。</p> <p>無形文化財の掘り出し定着。ともなり祭り、花火。</p>	<p>観光資源となる可能性有。</p> <p>観光資源となる可能性有。</p>
経済(全般:景気動向)部門	
<p>地域グローバル</p> <p>市の税収減</p> <p>乗用車を前提とした生活が根付いている。</p> <p>GDP重視</p>	<p>地域経済のブロック化。</p> <p>市の税収減は大きな転換がないと回復しない。</p> <p>右肩上がりの計画(時代)はやめよ。少しづつ小さくする。</p> <p>この生活を維持していく。</p> <p>幸福度重視(ブータン団)</p>

現 状	将 来
経済(農業)部門	
<p>農業の部分特化(リンゴ、イチゴ)</p> <p>農業就労者の高齢化</p> <p>木材価格の下落</p> <p>県では、森林環境税を導入し、森林環境の保全を実施。</p> <p>高原山は自然が豊富。平地は限定的。</p>	<p>部分特化(リンゴ、イチゴ)の継続</p> <p>高齢化、人口減少による衰退。</p> <p>木材低価格の常態化、就労者減による産業衰退。</p> <p>森林の有効活用による循環型社会づくりが必要。</p> <p>自然環境意識が高まり、地域注目の可能性有り。</p>
経済(産業・工業)部門	
<p>生産業の非正規労働者増加。</p> <p>内陸型工業県として成功している。(栃木県)</p> <p>国際化、人、物、情報、資金交流の活発化。</p> <p>企業リストラ推進。(人員削減)</p> <p>事業所数の減少。(産業)</p> <p>公共工事の減少。(予算削減)</p> <p>収入減による購入意欲減。小売店の体力低下。</p>	<p>非正規労働者の常態化。所得の低下。</p> <p>世界的な競争の中、その地位が揺らいでいる。</p> <p>海外市場開拓、外国人労働者等交流の多様化と深まり。</p> <p>企業リストラ推進の増長(海外移転)</p> <p>自他力へ、興業へ。</p> <p>公共工事減少による雇用減少。</p> <p>地理的条件を生かした企業誘致を図る。</p> <p>大型店や通販により、小売店の淘汰。</p>
経済(商業)部門	
<p>ショッピングセンター極集中</p> <p>外食店舗数の維持。</p> <p>有力店舗の近郊都市への進出</p> <p>大手スーパー多し。</p>	<p>ショッピングセンター極集中の増長による空洞化進行。</p> <p>有力店舗の転出増長による空洞化進行。</p> <p>ファーマーズマーケットへ。</p> <p>景気後退による事業縮小。雇用の悪化。</p>
インフラ	
<p>図書館、文化会館、体育館の活用可能</p> <p>片岡地区、アクセスがよい。</p> <p>道路整備は進んだが、生活実態がよくなりず。</p> <p>温泉施設が市内に数カ所有り。</p>	<p>施設の老朽化が進み時代に即した更新</p> <p>トータルプレミアムタウン。総合的な居住地域。</p> <p>複合的に関係性をもった取組による活性化。</p> <p>検証、見直しを進め住みたい街に。</p> <p>この数を維持していく。</p>
その他(人づくりなど)	
<p>ボランティア、NPO、企業など自発的な活動の広がり。</p>	<p>行政に対するニーズの多様化。複合化に対応するため、民間とのパートナーシップ。協働。</p> <p>「よその資源」「よその人」をあてにしない「自立・自前」の精神</p>

良いところ

イベント

高原山トライアスロン 他1件
 花火大会 他3件
 サッカーが盛ん
 市民力を活かした活動
 行事が毎年行われている
 たかはらマラソン
 灯籠流し(あんどんまつり)

教 育

学校の統合(効率化)
 高校が3校有る 他2件
 市外からの通学者が多い
 泉小・中の一貫教育
 教高 可も不可もない。

人

まじめで誠実
 素朴である
 優秀な人材が多い
 若い人が頑張っている
 近所づきあいが今もある

インフラ

JR
 国道 } 他3件
 高速
 日本有数の交通アクセス
 塩谷地区の中心 多くの行政機関
 公共施設が一通りある
 行政がまじめな印象
 ゴミのかごが決められている
 施設使用料が割安
 ものが散在している

産 業

有名な大手企業 他1件
 第2次産業の割合が高い物づくり市
 ゴルフ場が沢山ある
 産業がコツコツ取り組まれている

農林業

食料自給率が高い
 農作物が安くて豊富でおいしい 他1件
 農業が盛ん 他1件
 林業 知恵で成長を
 県民の森 自然啓蒙施設が容易に利用
 イチゴ リンゴ ブドウ 直売場

自然 環境

美しい高原山(観光資源)
 高原山の眺め
 自然が残されている・豊か 他4件
 自然を活かした余暇がある
 農村景観に恵まれている 棚田
 適度に田舎
 静かなまち ほっとする
 健全なイメージ
 環境に対して積極的

その他

とかいなか！ お試しの家はよい情報発信

悪いところ

行政

補助金のフォローがない
 行政に意思を感じない
 行政に進展や熱意を感じない
 新たな市の取組がすくない 他1件
 行政が民間に無関心
 行事の際、関係者のみ盛り上がっている

教育

高等教育機関がない 他1件
 教育に特徴がない
 古い校舎への統合は疑問
 図書館、体育館の老朽化
 教高 可も不可もない。

人

人が明るさが少ない
 優秀な人材の流出
 まちづくりへの関心薄い
 市民のあきらめ意識

インフラ

インフラ整備の遅れ
 下水道普及率が低い
 道路事情が悪い
 R4とR461の交差の不備
 恵まれた道路網、鉄道網を活かせていない
 幹線以外の道路の不備
 公園遊具の整備不良
 公園が寂れている
 公共施設が十分に整備活用されてない
 公共施設が使用後きかない

産業

大規模商業施設の立地が少ない
 企業に頼りすぎ
 大手メーカーの城下町
 下請け構造が強い
 企業の誘致が遅れた入っていない 他1件
 雇用機会の減少
 産業に力強さが乏しい
 人口フレームの設定が現状維持ではだめ
 交通が便利なのに企業がすくない

商業

中心市街地の低迷、停滞 他2件
 スプロール化が進んでいる
 市の名産品の知名度が低い
 第1次産業で目立った特産品がない

農林業

森林が管理できていない
 木材利用の普及に努力していない

環境 景観

景観法等で保全されていない
 景観を損なう建物が多い
 自然が生活、産業等に取り組みされていない
 観光スポットがあまりない
 全国的で即活用可能な歴史資源がない

情報伝達

ボランティア活動の紹介不足
 生活情報が乏しい
 もっともっとよいことをPRすべき
 市のイメージがわからない
 全般的に消極的
 災害時などの情報伝達不足
 有名人等出身者のまちづくり不足

その他

衆議院選挙区が2市2町で唯一3区
 独居老人の安否確認不足
 ゴミの不法投棄のところがある
 総合病院の診察制限が多い
 新規事業が生まれにくい風土

《良いところ》

高原山の有効利用
高原山トライアスロン
市民発の花火大会

大学生のオリエンテーリング全国大会
サッカーが盛ん

イベント

市役所図書館付近は文教ゾーンとして
良い風景

泉の小・中一貫校や統合による交流
県立2校私立1校市外からの通学多い

教育

人材「まじめ」「誠実」
若い人材が頑張っている

人が素朴である
近所づきあいが残っている
優秀な人材が多い

人

JR 国道高速が交差する有数の地域

日光 那須観光への中継
ゴミのかが決められている

公共施設が一通りある
施設利用料金が割安

塩谷郡2市2町の中心

インフラ

第2次産業の割合高い「ものづくり市」
有名な大手企業
シャープのイメージ

ゴルフ場が沢山ある
産業がコツコツ取り組まれている

ものが散在している

自然啓蒙施設(県民の森)身近

農業が盛ん

「林業」↓知恵で成長

自然が豊富
高原山系の自然を活かした余暇

環境に対して積極的
エコハウスプレミアムビレッジ

雪が少ない内陸性気候
豊かな自然 日光国立公園の一部

とかいなか
適度にいなか
お試しの家は情報発信によい

産業

自然

健全なイメージ

静かなまち「ホッとする」

《悪いところ》

自然資源の利用

- 景観法に基づく保全が不十分
- 観光スポットがあまりない
- 全国的で即活用可能な歴史施設がない
- 景観を損なう建物
- ゴルフ場利用者へのアピール不足
- 自然が生活産業・経済に組み込まれていない
- 自然資源を利用したイベントに対するニーズをキャッチできていない

産業 ②

- 交通が便利なのに企業がない
- 南産業団地に入っていない
- 大規模商業施設の立地が少ない
- 新規事業が生まれない風土
- 企業に頼りすぎ
- 雇用機会の減少
- 木材利用の普及をしていない
- 大手メーカーの城下町
- 企業の誘致が遅れた

その他

- 市のイメージがわからない
- もっと良いことをPRすべき
- 矢板出身者のPR不足
- 衆議院が3区
- 人口フレームの設定現状維持ではだめ

地域医療 ①

- 独居老人の安否確認不足
- 地域医療の充実
- 総合病院の科の制限多い

人 ③

- 市民のあきらめ意識
- まちづくりへの無関心
- ボランティア活動の紹介不足
- 全般的に消極的
- 明るさ、積極性がない
- 優秀な人材の流出

行政 ⑤

- 行政に新しいことを行う意欲がない
- 行政に進展や熱意を感じない
- 民間が行政に無関心
- 生活情報が乏しい
- 行政の隙関係者に比べ周りの意識は低い
- 市の補助金のフォローがない
- 災害時の情報伝達不足

インフラ ⑤

- 下水道普及率が低い
- 道路事情が悪い
- インフラ整備の遅れが目立つ
- 公園整備の遅れ
- 恵まれた交通インフラを活かしていない

教育 ③

- 教育に特徴がない
- 高等教育機関がない

環境 ④

- 森林が管理できていない
- スプロール化が進行している
- 公園が寂れている
- ゴミの不法投棄の場所がある
- 図書館・体育館の老朽化
- 公共施設が十分に活用されていない
- 古い校舎への統合疑問
- 公共施設の使用後汚い
- 中心市街地の停滞
- ボランティア活動が低調

《現状と将来》

大きな老人ホームの不足 783/806	市の人口減少	少子高齢化
老人施設の整備	一層の福祉の充実	適正化への移行
地域総合病院の経営・診療充実は難しい	保育部門において待機児童置はなし	少子高齢化と人口減少
政策転換により良きも悪くも、...	人口減少夫婦共働き保育園入園の希望増	市の人口減少特に出30代と子供
	一層の進行により医療、福祉、年金、産業、まちづくりに影響	市の人口減少高齢化が進行

福祉

ボランティアNPO企業などの自発的な活動のひろがり

行政に対するニーズの多様化、複雑化に対応、長間とのパートナーシップ

観光

史跡指定を受けた歴史的な建造物	無形文化の掘り起こしと定着、花火、ともな祭り
観光資源となり得る可能性有	観光資源となり得る可能性有

教育

集団の均一化(教育)

個の能力を伸ばす教育

サタデー・スクール(地域力)

インフラ

回車庫、文化会館、体育館の活用可能	道路整備は進んだが、実態はよならず	温泉施設が市内に数か所有	市の人口減少高齢化が進行
施設の老朽化が進み時代に即した更新	協力的に関係性を持った取組による活性化	この数を維持していく(温泉数)	
片岡地区、アクセスが良く、ホテル・プレミアムタウン、	検証→見直しを進め「住みたい街」に...		

農業の部分特化(りんご)	農業就労者の高齢化	生産業の非正規労働者増加	内陸型工業県として成功している。	収入減による購買意欲の減、小売店の体力低下	企業リストラ推進	ショッピングセンターの極集中	外食店数の維持	有力店舗の近郊都市への進出
部分特化継続	高齢化、人口減により衰退	非正規労働者の常態化、所得低下	全世界的な競争の中でその地位がゆらいでいる	大型店や通販により小売店の淘汰	企業リストラ推進の増長	一極集中の増大による空洞化懸念	?	転出増長、空洞化の進行
木材価格の下落	木材の有効利用による住環境社会づくり	高原山自然豊富、平地は限定的	国際化、人、もの、情報の交流活発化	公共工事の減少	事務所数減少(産業)			大手スーパーが多い
木材価格の低下、就労者減		自然環境意識が高まり、地域注目の可能性有	海外市場開拓、外国人労働者の交流の多様化と深まり	雇用の減少	自他力へ興業			ファーマーズマーケットへ
				税金減				

1次産業

2次産業

3次産業

地域グローバル

地域経済のブロック化

右肩上がりの計画はやめる

このまま維持

大きな転換が必要

雇用転換前提とした生活

環境

環境への配慮を優先する考え方の広がり	豊かな自然ハイオエネルギー 高原山を源とする自然	エネルギーを他県から購入	GDP重視
環境に配慮した再構築社会形成に向けた取組	自然環境意識が高まる中、環境政策が必要	エネルギーを地域で自給	幸福度重視(フータン国)
環境、温室効果ガス削減 目標25%の対策	現状は平凡	ゴミのポイ捨て、看板が多い	リサイクルの取り組みは多方面での連携が求められる
CO2削減に向け自然エネルギーの利用	エコハウスを模した農、林、観光産業一体の対策	清潔な街、道、農地	

よその人、よその資源をあてにしない



将来像

市民力で創る

やすらぎ いいきき たのしい

まち 矢板

基本方針

やすらぎ

健康福祉、環境

いいきき

産業、教育

たのしい

“夢” - 観光(交流人口の拡大)

市民力で創る ボランティアセンター

人口フレーム

現状維持

交流人口 (1,000名)

